

ユン・ミヒャン代表が送る

挺対協週刊ニュース 2015-8 号

3月9日(金)~3月15日(日)

沢山の方々が元気に行って来るよう祈って下さったおかげで、個人的には大変な事がありましたが、すぐにニューヨークへ出発し、国連女性の地位委員会の活動に参加してきました。今回会った人々の日本軍「慰安婦」問題解決への支持と連帯に変わり無く、日本政府が国際社会に向けて発している日本軍「慰安婦」問題に対する立場と暴言に、理解できない非常識な行為だと口を揃えていました。

北京で開かれた世界女性会議がもう 20 年も前の事となり、その会議で武力紛争下での性暴力犯罪を解決するための国際社会の行動計画を決議してから 20 年、いまだに日本軍「慰安婦」問題は解決されず、むしろ日本政府はその時よりもっと後退しました。しかし、より多くの国際社会の市民が私たちの活動に力を与え、世論を作り出してくれています。だからこそ、再び悟ることができたのです。いつも感謝の気持ちを表さずにはられません。いつも胸一杯。感謝の気持ちでこの一週間を過ごしました。そして、これからの一週間も感謝の気持ちで過ごしたいと思います。ありがとうございます。

今、私はベトナムにきています。ベトナムでのナビ基金活動の一環として、ビンディン省女性同盟と人民委員会会議、韓国軍性暴力被害者と会いました。

挺対協常任代表 ユン・ミヒャン

3月9日(月)

1. シェルターではいつもと変わらずユン・ヨンシク先生がハルモニたちの健康管理をしてくれています。おかげで私も、今日はユン先生に壊れた膝・腰・肩の治療を受けました。私たちの前でキム・ボクトンハルモニは自身の健康さをアピールしながら毎朝こんな動きを 100 回はやっているといっています。
2. ユン・ミヒャン代表の家族がナビ基金に100万ウォンを寄付してくれました。挺対協のユン・ミヒャン代表の義父が先週 79 歳で亡くなりました。5 人の子に恵まれましたが、無念にも病魔には勝てませんでした。しかし、その子どもたちの知人が弔問に訪れ、弔慰金で故人の冥福を祈りました。遺族はその弔慰金の内、南北統一に関する活動と民主主義を守る活動にそれぞれ 100 万ウォンを、ナビ基金にも 100 万ウォンを寄付してくださいました。今日、遺族を代表してユン・ミヒャン代表がキム・ボクトンハルモニにナビ基金 100 万ウォンを渡しました。



3. 先週、韓国外交部の東北アジア局長との面談を申請し、今日、局長室で局長と日本課長との面談が行われました。これまでの日韓局長級会談の状況とメディアが報道しているニュースについて確認し、今年行われる国際活動についても意見を交わし、お互いの状況を共有しました。
4. マリモンドが国連キャンペーンのために商品を寄付してくれました。贈り物のやり取りで情が伝わり、交わす情は連帯を作り出す…。挺対協は国際キャンペーンを行うたびにあれこれと贈り物を準備します。韓国の伝統的な物や日本軍「慰安婦」ハルモニたちと関連したイメージのグッズ、挺対協の活動資料を準備しています。今回の国連の会議には、マリモンドから頂いた贈り物も持っていきます。ハルモニたちの押花の作品をイメージ化して作ったスカーフをはじめ、様々な商品を綺麗にラッピングして事務所に送ってくれました。ありがとうございます。



3月10日(火)

1. 全北大学の希望ナビメンバーが、本日 13 時から全北大学正門前で世界 1 億人署名運動を一生懸命頑張ってくれたそうです。活動の様子を facebook で紹介してくれました。



2. ユン・ミヒャン代表は国連に向けてニューヨーク行きの飛行機に乗り出国しました。14 時間の飛行の末、ニューヨーク時間で 13 日の午前 11 時に到着し、ホテルに荷物を置き、国連で ID

を発行してもらいました。夜には韓国の女性家族部長官が女性団体の代表を招いて韓国料理のレストランで晚餐会を開いてくれたので、そこで食事をしながら女性団体の代表と挨拶もし、国連女性の地位委員会で展開される活動についてシェアする時間となりました。

3月11日(水)

1. 第1169回水曜デモは、3.8京畿女性大会準備委員会が主管し、京畿女性団体連合、京畿自主女性連帯、京畿女性連帯、民主労総京畿本部女性委員会、韓国労総京畿地域本部女性委員会、全国女性労組京畿支部が一緒に行いました。〈平和の泉〉、マリアの娘修道会、水原(スウォン)女性ホットライン、平和ナビネットワーク、社会的企業〈マリモンド〉、劇団〈くじら〉が会場に輝きを与えてくれました。参加者たちは「ハルモニたちに名誉と正義を」、「真相究明、公式謝罪」などのスローガンが書かれた黄色い蝶のプラカードを真心込めて準備し、ハルモニたちを応援しました。また、歌『まさにその一人が』の中で「私たちが一緒に行けば寂しくないはず。その一人が大切な人でしょう。決して忘れないで。大切な人たちを〜」という歌詞を歌いながら揺るがない連帯の意志を固めました。



キム・ソンシル挺対協共同代表は「水曜デモは今や国際的市民の連帯の場となっています。今日も海外から来てくれた方々が目につきます。ハルモニたちの名誉と人権回復のための水曜デモで、女性たちの叫びは続くでしょう。今日来てくれた京畿女性大会参加者の皆さんも、問題解決の為に一生懸命叫んでくれていると信じています。ユン・ミヒャン常任代表は今、ニューヨークで第59回国連女性の地位委員会に参加して日本軍『慰安婦』問題を国際社会に広く伝えて戻るでしょう。また、挺対協は今年も53名の生存者ハルモニたちが命ある内に問題の解決を見届けることができるよう努力し、ハルモニたちを直接訪問しケアする事も一生懸命やっています。水曜デモは慰安婦問題に対する連帯を確認する場であるだけに、皆さんも今日だけでなく、これからも持続的に連帯してください。そして、水曜デモに続いて行

われる 3.8 京畿女性大会も素敵なイベントになるよう祈っています。女性たちの連帯で日本軍『慰安婦』問題を解決しましょう！女性の権利を確実に勝ち取りましょう！」と皆と一緒にスローガンを叫んで経過報告を終えました。



3.8 京畿女性大会の参加者たちは水曜デモの声明書を通して「この 23 年間、日本政府が日本軍『慰安婦』強制動員という歴史的事実を自ら認めて被害者たちに公式謝罪と法的賠償をすることを求めてきた私たちの闘争は、国際社会へ向けた『正義の共鳴』となり、連帯を牽引する『希望の灯』となった。歴史とは取り返しのつかないものである。誠実な良心を求める平和と正義に向けた私たちの叫びは決して無視されず、新たな希望を作り出すための私たちの闘いは止められない。第 107 回 3.8 国際女性デーを記念する第 11 回京畿女性大会の参加者は皆、戦争と分断の最大の被害者は女性だという歴史的な事実の前で固い連帯の意志を表し、もう一度私たちの要求を表明する。日本政府は平和憲法改悪と軍事的再武装などの反平和的行動を止め、戦争犯罪を処罰しろ！」と決意を固めた。





自由発言ではイ・サンオン民主労総京畿本部長が「朴槿恵大統領は初の女性大統領でありながら、これまでの任期中、何をしてきたのかわからない。問題解決のための積極的な行動を求める。また、日本軍『慰安婦』問題解決に民主労総が積極的に取り組んで力になりたい」と連帯の意を伝えました。キム・セム平和ナビネットワーク代表と弘益大学平和ナビの学生ホン・ウンソさんは「4月の平和ナビコンサートを準備しており、忙しく活動している。問題が解決されるその日まで、ハルモニたちの隣で力になりたい」と気持ちを伝えました。社会的企業〈マリモンド〉のチーム長パク・ボへさんは「先週の土曜日に戦争と女性の人権博物館を折り返し地点とするコースでマラソン大会を行った。参加者と一緒に走りながら暖かな心を共有できる、とても意義のある良いイベントとなった」と話しました。

2. ユン・ミヒャン代表は女性家族部のシン・ヘス日本軍「慰安婦」資料ユネスコ事業推進団団長と共に、在国連オ・ジュン大使との昼食会に出席し、日本軍「慰安婦」問題解決の為の今後の国連での活動の方向性と新たな活動計画などについて意見交換を行いました。

3月12日(木)

1. 第59回国連女性の地位委員会(CSW)のサイド・イベントである「戦時性暴力根絶のための国際社会の役割討論会」に出席し、日本軍「慰安婦」問題解決の為の国際社会の積極的な連帯を求めました。今年北京で行われた世界女性会議から20年となる年です。北京世界女性会議で採択された女性行動綱領には武力紛争下での女性への暴力問題を犯罪と規定し、この問題を解決してゆくための政府と市民社会の努力を決議しました。しかし、その後20年経っても日本軍「慰安婦」問題は解決されず、武力紛争下での女性への暴力問題も減らず、解決されないままです。3月、国連女性の地位委員会(CSW)では世界各国の政府代表、国会議員、女性NGOが集まり、20年間に女性たちの暮らしや地位にどのような変化があったか、政策、法制化に進展があったかなどを点検する多様な活動が行われました。世界各地から9000人の女性が集まったそうです。韓国からも女性家族部・女性人権振興院が主催して武力紛争下での女性への暴力問題解決の課題についてのイベントを開催しました。Rm Eで行われましたが、沢山の人が殺到し、

セキュリティが出動するなど、一時騒然とするシーンもありました。結局は消防法などにより、席が足りずに立ち見をしていた人や床に座っていた人々は参加できず退出するという事態になってしまいました。



武力紛争下での女性への暴力のアジアの事例としては日本軍「慰安婦」問題をユン・ミヒャン、パプアニューギニア戦時性暴力の事例を Helen Hakena、アラブ諸国の戦時性暴力事例を Afaf Marie、ゲイ・マクドゥーガル前国連戦時性的奴隷制などに関する特別報告官の発表がありました。また、武力紛争下での性暴力被害を解決するための女性運動について WILPF(婦人国際平和自由連盟)の Maria Butler が発表してくれました。

ユン・ミヒャン挺対協常任代表は発表で「日本軍『慰安婦』生存者ハルモニたちは 20 年以上もこの問題を提起し続けて来ましたが、日本政府は責任逃れを続けています」と嘆き、「ハルモニたちが求めることは誤った戦争犯罪が繰り返されないよう日本政府がきちんと公式謝罪をし、国際社会が再発防止教育に取り組むこと」であると訴えました。

ゲイ・マクドゥーガル前報告官は「各国政府の最高意思決定権者レベルで戦時性暴力問題を解決しようとする意志を持つ…事が何よりも重要だ」と強く求めました。シン・ヘス国連人権政策センター常任代表も「戦時性暴力問題で最も重要なことは、何よりも加害者に対する例外なき厳重な処罰だ」と強調しました。



全ての参加者は日本軍「慰安婦」問題解決の為、国際社会がこの問題を戦時女性暴力を終息させるという観点から取り組むべきで、戦時女性暴力に対しては強固な処罰が行われるべきという点、そして歴史を歪曲しようとする日本政府に対し、国際社会が実情をしっかりと伝え、加害者に対しては例外なく厳重な処罰をするべきという点で一致しました。一方で、韓国政府は今回の国連女性の地位委員会で初めて日本軍「慰安婦」問題解決を公式に提起しました。

今後、挺対協は国連と国際社会と共に連帯し、韓国の市民社会とも協力して日本軍「慰安婦」問題解決の為、戦時性暴力被害解決の為に、より積極的に活動してゆく計画です。

2. ニューヨークでゲイ・マクドゥーガル特別報告官と晚餐、日本軍「慰安婦」問題に対する日本政府の蛮行、解決の為の活動の代案などについて意見を交わしました。 話をする中で、2012年にソウルを訪問した際にシェルターでハルモニたちと交わした会話、出会いを覚えていて、ハルモニたちによろしく伝えて欲しいと愛情あふれる挨拶を伝えてくれました。いつもハルモニたちを忘れず健康を祈ってくれる、人権回復のために連帯してくれる、ゲイ・マクドゥーガル特別報告官に感謝します。



3月13日(金)

1. **戦争と女性の人権博物館には昨年に続き、今年も最年少の来館者が来てくれました。**ヨナム保育園の子どもたちが博物館に来て、一緒に『コッハルモニー花のおばあさん』の絵本を映像で見て、博物館全体を観覧しました。子どもたちなので映像を通して読み聞かせた『コッハルモニー花のおばあさん』でしたが、話のあいだ中ず〜っと質問を投げかけてきます。「なぜ花のおばあさんはお姉さんに会えなかったの？」「そのお姉さんはどこに行ってしまったの？」「さっき別の車に乗せられて行っちゃったって言ってたじゃん？」などなど…。全部見ながら蝶型のメッセージカードにメッセージを書いて飾っていく子もいます。今夜は悪夢を見ちゃうかもと話す子もいました。1階に展示されている少年兵たちやコソボ内戦中に足を切断して治療を受けている13歳の少女に関心を示したりもしました。なぜこのお兄さんたちは軍服を着ているの？なぜこのお姉さんは足がなくなってしまったの？…疑問も沢山持ちました。子どもたちにとってこの博物館はとても難しい空間だけれども、子どもたちの目線で受け止められる事は受け止めてくれたようです。私たちの未来である子どもたちが生きる世界は、戦争のない平和な世界であることを祈ります。



2. **戦争と女性の人権博物館に立命館大学の庵道先生が学生たちと一緒に訪れました。**博物館の観覧をし、『少女の物語』の映像も見て、ヤン・ノジャチーム長と最近の状況と挺対協の活動について話しました。学生たちは世界1億人署名にも参加しました。



3月15日(日)

1. ユン・ミヒャン代表は水原(スウォン)の自宅の近所で日本の朝日新聞の中野記者から挺対協の活動についてインタビューを受けました。中野記者はソウル支局で記者として過ごし、大阪へ戻って約1年が経ちますが、朝日新聞が吉田証言に対する記事を撤回したことに伴い受けている様々な困難を乗り越えるために頑張っているようです。約一時間半インタビューを行い、色々な側面から挺対協活動について話をすることができました。

(翻訳ボランティア: 米川智恵子)